

浜岡原発5キロ圏5万人…

ヨウ素剤事前配布

悩む地元市

原発事故時に服用すれば甲状腺被ばくを防ぐ効果があると考えられる安定ヨウ素剤を平常時から原発5キロ圏内の住民に配っておく「事前配布」に向けた全国初の説明会が、九州電力川内原発が立地する鹿児島県薩摩川内市で始まった。静岡県内で事前配布の対象になるのは、中部電力浜岡原発5キロ圏にかかる御前崎、牧之原両市。圏内人口は計約5万人で、薩摩川内市の4800人を大きく上回る。実施に向けて、県内の関係者は多くの課題を指摘する。

原子力規制委員会は5月23日、県と御前崎、牧之原両市をはじめ全国の原発立地自治体から職員を集め、都内で事前配布のシミュレーションを行った。集まった住民役の職員はヨウ素剤の説明を受けた後、問診票に記入し、薬剤師や保健師の説明を受け、一度に

の可否を判断し、問題なければその場でヨウ素剤を配る。住民への説明会と配布を一度に行う方式だ。国から具体的な配布方法が示されたことを受け、薩摩川内市は6月17日から事前配布の説明会を始めた。実際の配布は7月に先送りしたものの、規制委による審査が最も進み、再稼働の1番手ともみられる川内原発の地元住民が、全国で初めてヨウ素剤の事前配布を受ける見通しだ。薩摩川内市は原発5キロ圏内の住民約4800人に対し、計10回の説明会を予定する。この

通しは立たない」と頭を悩ます。牧之原市の担当者は「ヨウ素剤の重要性は分かるが、県が避難計画も示していないが先決」と話す。

安定ヨウ素剤の種類と特徴の違い

(イラストはイメージ)

錠剤タイプ	粉末タイプ	ゼリータイプ
・事前配布される ・3～12歳は1錠、13歳以上は2錠を服用 ・有効期限3年。市町村が交換・回収	・事前配布の対象外 ・3歳未満も服用可。薬剤師が適量を水に溶かし提供 ・溶かしたものは変質するため保存不可	・製薬会社が開発中 ・新生児用と3歳未満用(予定) ・有効期限3年(予定)
・配布は医師の説明・判断が必要。譲渡不可。国や自治体が服用の時機を指示 ・放射性ヨウ素を吸い込むまでの24時間以内に服用すれば有効。原則1回のみ ・発疹、嘔吐(おうと)、頭痛、発熱などの副作用が出る場合も		

安定ヨウ素剤を扱う上での課題と服用の注意点について、県薬剤師会常務理事を務める賀川義之(賀川 義之氏)に聞いた。

「ヨウ素剤は錠剤タイプと粉末タイプがある。錠剤が飲めない乳幼児は、薬剤師が粉末を水で溶かした液剤なら服用できる。ただ、時間がたつ

3歳未満 国が支援を

県薬剤師会常務理事 賀川 義之氏に聞く



安定ヨウ素剤の服用上の注意点を説明する県薬剤師会の賀川義之常務理事。11日、静岡市駿河区の県立大

と変質してしまつたため保存できない。原発5キロ圏内では事故発生後に液剤を作って配るのは難しく、国は早期避難を呼び掛けている

「ヨウ素剤は錠剤タイプと粉末タイプがある。錠剤が飲めない乳幼児は、薬剤師が粉末を水で溶かした液剤なら服用できる。ただ、時間がたつ

「3歳未満でも錠剤を飲めば、10歳でも飲めない子がいる。一般的に、5歳未満に錠剤の薬を与えらることは少ない。錠剤をゼリーやヨーグルトに含ませ、後で水を飲ませてもいい」

「副作用には重篤なものもあるのか。」「急性の毒性はなく、怖がり過ぎる必要はない。副作用を起こす人もごく少数いるが、既往歴だけで事前には必ずしも分らない。副作用を恐れて飲まないより、服用するメリットの方が大きい」

「ヨウ素に過敏症がある人は、服用の対象外になる人は。」「ヨウ素に過敏症がある人は不適とされる。ヨウロイドを含む造影剤でアレルギー反応が表れる人、腎臓病の患者、高血圧の人を飲んでいて人は、医師に慎重に判断してもら